

監督・選手注意事項

1. 規則について

本大会は、2025 年度日本陸上競技連盟競技規則並びに本大会申し合わせ事項によって行う。

2. 競技場について

主競技場の競走路及び助走路は全天候舗装である。スパイクのピンの長さは9mm以下とする。ただし、走高跳・やり投のピンの長さは12 mm以下とする。これらのスパイクピンの直径は、先端が4mm以内、スパイクピンの数は 11 本以内とする。走路の保全と競技者の安全のために、競技規則 TR5を厳守されたい。**競技用シューズの靴底については競技規則 TR5(シューズ)を適用する。**

表:TR5 より抜粋

種目	トラック種目(競歩以外) ハードル種目 障害物競走 フィールド種目	競歩
靴底の最大の厚さ	20 mm	40 mm

3. 練習について

- ① 練習は補助競技場(練習は大会参加選手のみ)で行うこと。公園内・駐車場など競技場外での練習は全面禁止とする
- ② 競技開始前のトラック開放は9:00までとする。
- ③ 跳躍競技・投てき競技の本競技場での練習は、招集完了後、役員の指示に従って行うものとする。
(棒高跳を除くフィールド競技は招集完了以前には、フィールド内に入ることはできない。混成競技のフィールド種目については、競技開始の 30 分前から練習できる。)

4. 招集について

- ① 招集は招集所(競技者係)において本人が受けること。その後現地で最終チェックを行う。
- ② 招集場所は100mスタート地点付近のダッグアウト内に設ける。
- ③ プログラムの競技日程に記載の招集完了時刻に遅れた者は欠場とみなし出場を許さない。
- ④ 男女棒高跳の招集は競技日程記載の時間に現地で行う。
- ⑤ 混成競技の1日目及び2日目の最初の競技についてもプログラム記載の招集時間において招集所で行う。2種目以降の招集は競技開始時刻のトラック競技10分前、フィールド競技10分前に競技場所で行う。
- ⑥ 混成競技の選手控所は設けない。
- ⑦ 招集所では、招集時間内にチェックを受け、アスリートビブス・ユニフォーム・スパイクの点検も受ける。
- ⑧ 一つの種目に出場していて、他の出場種目と招集時刻が重なる場合は、招集所競技者係に申し出て了解を得ること。
これを怠った者は欠場とみなす。

5. アスリートビブスについて

- ① アスリートビブスは登録番号とし、顧問総会で配付した数字サンプルを使用して作成(男女とも布に黒字で/他のビブス裏面利用不可)すること。アスリートビブスは2枚を胸と背につけること。ただし、跳躍競技参加の競技者は胸部または背部だけでもよい。
- ② アスリートビブス・腰ナンバー標識の扱いについて、次の通りとする。

	100m・200m・400m・800m・1500m・100mH・110mH・400mH・ 4×100mR・4×400mR、跳躍競技・投てき競技	3000m・5000m・3000mSC 5000mW
アスリートビブス	登録番号を各自で用意	レーンナンバーを主催者が用意
腰ナンバー標識 ※トラック競技のみ	レーンナンバーを主催者が用意 ※4×100mRは4走のみ、4×400mRは2～4走のみ	レーンナンバーを主催者が用意

※主催者が用意した特別ナンバーカード及び腰ナンバー標識を受け取る際は各自で用意した登録番号のアスリートビブスを提示する。

- ③ 主催者が用意する特別ナンバーカードおよび腰ナンバー標識は、プログラムでレーンを確認した後、招集所から各自で持つこと。なお、腰ナンバー標識、特別ナンバーカードともに返却せず、各自で持ち帰ること。また、腰ナンバー標識用も含め、安全ピンは各自で用意すること。

6. トラック競技の組・レーン順、フィールド競技の試技順について

- ① トラック競技の組・レーン順、フィールド競技の試技順は主催者が抽選し、プログラムで示す。
- ② トラック競技の準決勝・決勝の組・レーン順は本部で抽選し、記録掲示場所に掲示する。
(シードレーンは競技規則 TR20.4 .3.4.5 を用いる)

7. リレー競技について

- ① オーダー用紙(プログラム内にある)は12時以降、1組目の招集完了時刻 60 分前までに招集所に提出すること。
- ② リレー競技に出場するチームのユニフォームは、同一チームが確認できるものとする。
- ③ オーダー用紙提出後競技日程記載の招集時間に4人そろって招集を受けること。

8. 写真判定・電気計時について

トラック競技においては写真判定を採用する。

9. トラック競技の準決勝、決勝進出について

800m までの種目及びリレー競技において、同タイム者(チーム)については判定写真を細部(電気計時1/1000 秒)まで読み取り着差を判定する。それでも判定できない場合は、同タイム者又は代理人によって抽選する。

10. 競技方法について

① 走高跳・棒高跳のバーの上げ方は最後の一人になり優勝者が決定するまで、以下の通りである。(荒天の場合は別に掲示する)

	練習	1	2	3	4	5	6	7	8	以降
男子走高跳	1m70～	1m75	1m80	1m85	1m90	1m95	1m98	2m01	2m03	2cm
男子混成	1m40～	1m45	1m48	1m51	1m54	1m57	1m60	1m63	1m66	3cm
女子走高跳	1m40～	1m45	1m50	1m55	1m59	1m63	1m66	1m69	1m72	2cm
女子混成	1m15～	1m20	1m23	1m26	1m29	1m32	1m35	1m38	1m41	3cm
男子棒高跳	3m50～	3m60	3m80	3m90	4m00	4m10	4m20	4m30	4m40	10cm
女子棒高跳	2m10～	2m20	2m40	2m50	2m60	2m70	2m80	2m90	3m00	10cm

② 同順位で関東大会進出を決める際にはジャンプオフ決定戦を行う。

③ 1位及び関東大会出場を決定するためのバーの上げ・下げは走高跳では2cm、棒高跳では5cmとする。

④ 投てき種目の計測ラインは以下の通りである。(荒天の場合は別に指示する)

	砲丸投	円盤投	ハンマー投	やり投
男子	10m50	30m00	***	40m00
女子	7m50	21m50	***	23m00

⑤ 走幅跳・三段跳はAピット(トラック側)、Bピット(スタンド側)で行い、トップ8も各ピットで行う。

⑥ 男子三段跳は12mピット、女子三段跳は9mピットを使用する。

⑦ 男子5000m、女子3000m、男子5000mW、女子5000mWのスタートは出場者数を確認して2グループに分けておこなう。

⑧ 競技運営上、男子5000mは18分、女子3000mは13分、男子5000mWは30分、女子5000mWは35分で最終周に入らなければ競技を中止する。但し、入賞者が確定していない場合はこの限りではない。

11. 用具について

投てき用具は、検査を受け承認された物に限り使用できる。ただし承認された投てき用具は、競技場の用具と同じ扱いとする。

(投てき用具は検査時間内に公式計測員の検査を受ける。検査時間については競技日程下段を参照のこと。)

なお、検査を受ける用具は日本陸連の検定品であること。

12. 入賞及び得点について

① 入賞は8位までとする。

② 得点は各種目1位8点、2位7点、……、8位1点とする。

③ 合計得点により、男女別学校順位を決定する。(同点の場合は上位種目の多い方を上位とする。)

13. 表彰について

① 各種目8位まで賞状を授与する。

② 各種目3位までに入賞した者は、競技終了後直ちに表彰を行うので、本部前に集合待機すること。なお、4位以降は表彰係まで賞状を取りに来ること。

③ 学校別表彰は、男女とも8位までとする。(閉会式内に表彰式を実施する)

14. 抗議・上訴について

競技規則 TR8にもとづき、競技者自身、もしくは代理人から審判長への抗議を口頭でなされる。裁定に不服の場合は競技者に代わる責任者が 上訴申立書と預託金 10,000 円を総務に提出する。

(抗議は正式アナウンス後、上訴は審判長の裁定確認後 30 分以内。同一日に次のラウンドが行われる種目は 15 分以内とする。)

15. 欠場について

欠場する場合は、招集所競技者係より「欠場届」を受け取り、できるだけ早く競技者係へ提出すること。

16. 助力について

競技場内での助力は禁止とする。競技区域外で競技者が録画された映像を見ることや録画再生機器を手にしてもよいが、場所などは競技役員の指示に従うこと。スタンドからの助言については競技運営ならびに他の競技者の競技に妨げにならない範囲で認めるものとする。文書をもって連絡することや、当該競技場所を勝手に離れることはできない。

また、ビデオ・ラジオ・CD・トランシーバー・携帯電話もしくは類似の機器等を競技場内に持ち込むことはできない(競技規則 TR6)ので、あらかじめ学校関係者に預けておくこと。

17. 警告について

・不正スタートは、1回で失格とする。混成競技については2回目以降に不正スタートの競技者が失格となる。

・スタート時の不適切行為に関しては、審判長によって警告(イエローカード)が与えられることがある。

・競技規則 CR18.5の規定により、不当な行為をした競技者やリレーチームにはイエローカード(YC)を提示し警告を与える。2回のYCを受けた競技者は、競技会から除外される。

18. その他

- ① 競技中の疾病・傷害などの応急処置は主催者側で行う。
- ② プログラムに誤記がある場合には、速やかに本部に申し出ること。
- ③ 参加各校は補助員を2名以上出すこと。補助員は7:45～8:15の受付を済ませ、8:30に本部前に集合すること。
- ④ シート・テントを張る場所は競技場の注意事項を確認すること。
各校の横断幕、のぼり等も競技場の指定された場所以外には張らないこと。応援席にテーピング・ガムテープ等を貼らないこと。
- ⑤ 大会中は競技マナーを守ること。
- ⑥ **貴重品の管理に留意すること。(※競技場で盗難が頻発している。)**
- ⑦ 本大会決勝で各種目6位まで入賞した者(走高跳、棒高跳は6位までの入賞者6名)は、6月13日～16日に栃木県・カンセキスタジアムとちぎで開催される関東高校対校陸上競技選手権大会兼全国高校対校陸上競技選手権(全国高校総体)南関東地区予選会に神奈川県代表選手として出場できる。
但し、競歩は5位まで、混成競技、女子三段跳、女子ハンマー投げについては4位まで、女子棒高跳は4位までの入賞者4名とする。該当選手は競技終了後直ちに本部庶務にて手続きをして書類を受領すること。
- ⑧ 南関東大会申込及び代表者会議は、5月21日(水)14:30～ 横浜平沼高校で行う。(申込は代表者会議を兼ねるため必ず顧問が出席のこと。また、申込に顧問が欠席の場合には、南関東大会への出場権を辞退したものと扱う。)
- ⑨ 本大会決勝でトラック種目(リレー種目を除く)・フィールド種目で上位8位までに入賞した者は、その種目に限り令和7年度(第67回)神奈川県高等学校新人陸上競技大会への地区予選通過の権利を得たものとする。ただし、地区予選の申し込みはするものとし、1種目1校3名以内、同一人2種目以内(リレーを除く)の出場制限は従来通りとする。本年度新人地区予選に本大会入賞種目を申し込まなかった場合、また申し込んで出場した場合は地区予選会通過の権利は失効したものとする。
- ⑩ 競技終了後は、速やかに競技場より退場すること。
- ⑪ ゴミは持ち帰りを原則とする。
- ⑫ **メインスタンドでの集団応援及び競技運営に支障がでる応援(特にフィニッシュ地点付近)は慎むこと。**

競技場入場について

- ・常任委員会での責任抽選の結果順で午前7時00分より先発者は整列開始。7時30分前後より入場予定。
 - ・各校2名以内で整列し入場を行うので競技役員の指示に従うこと。
 - ・上記の2名が別々の場所をとることは禁止とする。
- ※ 常識を逸脱した時間に生徒が集合しないように各校で責任を持つての指導をお願いします。

安全対策について

- ・競技会に参加の選手、競技役員、補助員以外はトラック、フィールドに立ち入らない。
- ・本競技場、補助競技場では決められたレーンを守り常に安全確認を怠らない。
- ・周囲の安全を確認し、審判員・顧問の指示に従い事故防止を何よりも優先する。
- ・トラック、フィールドともに横断する際には周囲の安全確認を行う。
- ・ウォーミングアップの際、事故防止の為に、必要な声の掛け合いを行う。
- ・投てき物を持った状態での空ターンや助走練習は、公式練習以外では行わない。
- ・投てき物(やり等)の回収の際も周囲の安全に十分に配慮すること。
- ・チューブ、マーカー、メディシンボール等の器具を使用しての練習は安全面から行わない。
- ・フィールド競技ではピットに入れるのは試技を行う1名のみとする。

レーン侵害による失格について (競技規則TR17.4.3/17.4.4)

- (ア) レーンで行うすべてのレースの曲走路で、左側の白線や縁石に2回(2歩)以上触れた場合や1回(1歩)踏み越えた場合。
 - (イ) オープンで行うすべてのレース(一部セパレートのレースも含む)の曲走路で縁石の内側に2回(2歩)以上踏み込み完全に入った場合
- ※同一種目でラウンドをまたいだり、リレー種目の別の走者による2回目も含む。
※1回目のリザルトの当該選手の横にLマークを表示する。

本競技会に関する皆様へのお願い

- ・競技場隣接の横浜市民病院内にあるコンビニを利用する場合は「マスクの徹底」と静粛なマナー・言動をお願いします。